

クラブハウス主催・森のようちえん

レポート：浦野真沙子

★概要

本施設はケロウナ市より初めて認可を受けたアウトドア型保育を行うプリスクール（森のようちえん）である。現在は週二回午前中のみ。その他の時間は別プログラムを行っている。座談会では認可を受けるまでの道のりについてもお話を伺うことができる。

- ① カナダで唯一、国の認可を受けている
- ② 学校や協会と協力して行っている
- ③ 室内で過ごす時間の多い子ども達に外遊びの体験を多くしてほしいとほじまった
- ④ プリスクールが週2回ある・他の施設団体に貸している（定期・不定期がある）
- ⑤ 外の敷地は他の人の物・10年～15年で所有したいと考えている
- ⑥ 学びながら作りあげているところ
- ⑦ 暑さをしのげる場所から建てた
- ⑧ 2歳～5歳・5歳～13歳の枠で分かれる
- ⑨ 子どもは多くの時間を外で過ごすと言ふことの大切さを感じている
- ⑩ 「雨だから」「寒いから」外に出ないとは大人の都合だと考えている。
- ⑪ 子ども達はストレスフリー・友達同士のトラブル・自閉症・ADHDの発達障害児も外ではわからない
- ⑫ 13歳までを自然の中で過ごすか否かでは、その後の成長に大きな違いがみられる



- ① 3歳児の砂場遊びが無くなったことで 何とかしないと感じた
- ② 農業と教諭免許を持ったナディアさんは「NO. toy」「NO. Technology」自然のまま・次の日に変化しているところを楽しみましょうと考えている
- ③ 多くの時間を外で過ごすこと
- ④ 土・泥・岩・草花・木がメインの遊び場であることが素晴らしいと気付いてほしい
- ⑤ 平らな場所ばかりでなく、自然のままの地形こそ最高の遊び場
- ⑥ フリーガーデンスペース・子どもが自由に植えられる。育たないことも大切な体験。そこから子どもの「なぜ？」



★教師の話

がうまれる

★課題

- ① 自然体験の少ない先生はつい先々に指示してしまう。「待つ」「見守る」事の大切さを知ってほしい
- ② 汚れを気にしすぎ
- ③ 直ぐに成果を求める 「時間を与えてほしい」
- ④ 「話しすぎ」「見過ぎ」 感じてあげてほしい
- ⑤ 「NO」はだめ 「どうしたらいいかしら」と言いましょ
- ⑥ 何かが死んだとき、「隠すのではなく受け止める時間を」
- ⑦ 子どもの「生きる力」を信じてほしい
- ⑧ 先生も自然でたくさん遊んでほしい
- ⑨ この場を維持していくこと



- ④ この大自然の中で過ごした子ども達は自らの力で生きていくことの楽しさをもみつけられるでしょう。そして自然に「仲間」を見つけ、体験を通して「観察力」「判断力」「考える力」が育つでしょう。
- ⑤ 私自身、散策からの帰り道では「スリル」から「わくわく・ドキドキ・楽しい」と思うようになりました。
- ⑥ 子ども達が大自然の中で育ち、「カナダ」という国の様に大きな心で夢に向かって生きていってほしいと思いました。

★感想

- ① 「これは、クマが遊んだ跡」「あら、何かが食べられたみたいね」「ここはコヨーテの通り道なの」・・・衝撃的な説明からはじまった、{先生と一緒に行くゾーン} への散策
- ② もはや「わくわく」を越えて「スリル」満点。
- ③ 見るもの全てが新鮮でまさに大自然。最高の場所でした。

